

令和3年度
(2021年度)

観光にぎわい部の取り組み実績

<部長の方針・考え方>

地域産業の活性化とコロナ禍における市内事業者への継続的な支援策の実施
文化芸術活動の拠点施設・総合文化芸術センターを中心として新たな賑わいづくりの展開
本市特性をふまえた観光施策の戦略的・総合的な推進と東部地域や枚方宿地区の活性化

具体的な取り組み：外部人材を活用した地域産業の活性化

外部人材として商工振興戦略コーディネーターを設置し、本市における商工振興事業の全般について戦略的に展開する方向性を確立するとともに、市内事業者が取り組む地域活性化事業への支援などに対して専門的立場から助言や提言等を得ることで、より効果的で実効性のある具体の事業に取り組みます。

これまでから本市の創業支援、開業支援の促進を目的として位置付けている地域活性化支援センターに統括マネージャーを設置し、民間の知見を取り入れた経営相談や講演会・セミナーなどを実施し、創業支援強化を図るとともに、経済団体・金融機関と本市による連携を強化しています。

また、商店街等の活性化という課題解消に向けて商店街等が主体的に空き家・空き店舗のリノベーションを実施する場合に、活動に必要な費用の一部支援を行うほか、市内企業若者雇用推進事業をプロポーザル方式で委託することで、企業・求職者それぞれのニーズに合った質の高い雇用につなげ、雇用施策の促進につなげます。

実績	<p>① 経営相談の対応<相談件数：273件>、各種セミナーや「ひらかたビジネスカフェ」の開催<開催件数：13回・参加延べ人数：154人>、創業実践塾の開催（セミナー等開催件数：28回、参加延べ人数：239人）、インキュベートルーム（全12室）の貸出<延べ使用者数：8人>、テイクオフ補助金の交付<交付件数：2件、420,000円></p> <p>② 創業支援事業連絡会の開催。<開催回数：6回></p> <p>③ まちづくり提案型事業の採択。<交付件数：1件、交付額：2,000,000円></p> <p>④ 合同企業説明会・面接会、企業見学ツアー、企業と求職者の交流会、ワークショップの実施。<採用者数：17名></p>
説明	<p>① 専門アドバイザーによる創業その他事業経営に関する経営相談、各種セミナーや講演会、創業を目指す方に向けた通年講座「創業実践塾」の開催、インキュベートルームの貸し出し、インキュベートルーム使用後の市内創業者を対象としたテイクオフ補助金などを実施し、さまざまな角度から市内事業者の支援に取り組みました。また、市内で創業を志す人々の交流の場として「ひらかたビジネスカフェ」を開催し、新たな創業者の裾野を広げる取り組みを推進しました。今後は、インキュベートルームの入居要件の緩和など、地域活性化支援</p>

	<p>センターの更なる効果的な活用方法を検討し、市内創業者や事業者の支援に繋げていきます。</p> <p>② 地域活性化支援センターにおける創業支援のさらなる充実をめざし、新たに大阪産業局とハローワーク枚方を構成団体に加えた創業支援事業連絡会を開催し、関係機関との連携強化を図りました。今後の連携の中で、「手厚いサポートのある関西一創業しやすい街」を目指します。</p> <p>③ 空き店舗のリノベーションを行い、レンタルオフィスやサロン、レンタルスペースとして利活用した「まちづくり提案型事業」への補助金交付決定を行い空き店舗の新たな活用へとつなげました。</p> <p>④ プロポーザル方式で委託事業者の選定をした「市内企業若者雇用推進事業」において合同企業説明会・面接会、求職者の企業訪問バスツアー等を実施し、平成 28 年度の事業開始以後、最多となる 17 人の採用に繋げることが出来ました。引き続き同事業に取り組み、市内の中小企業における人材不足の解消と若者の雇用促進を図っていきます。</p>
--	--

具体的な取り組み：コロナ禍における市内事業者への継続的な支援

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内事業者への継続的な支援の一環として、引き続き「事業者支援総合相談窓口」を設置し、国・府も含めた各種支援策の最新情報の提供や専門家を配置して専門的な相談にも対応します。併せて、小規模事業者事業継続支援金の支給のほか、長期化するコロナ禍をふまえて、国・府の支援を受けることのできない市内の個人事業主・小規模事業者の支援策を引き続き検討します。

また、市内の関係団体との連携や企業訪問などを通して、市内事業者が抱える課題の把握に努めるほか、NICT(国立情報通信研究機構)や地域産業クラスター研究会などと連携を図りながら、ICT を活用して課題の解決につながる方策を検討します。

実 績	<p>① 「事業者支援総合相談窓口」 <相談受付件数：10,440 件（うち専門相談 7 件）></p> <p>② 「小規模事業者等事業継続支援金」 <交付件数：1,489 件、交付額：154,200,000 円></p> <p>③ 「飲食店等感染症対策備品購入補助金」 <交付件数：213 件、交付額：7,055,960 円></p> <p>④ 「緊急融資信用保証料補給金事業」 <交付件数：42 件、交付額：2,726,744 円></p> <p>⑤ 「ひらかたコロナウイルス感染症対策実施店舗応援プレミアム付商品券事業」 <登録店舗数：1,499 店、販売冊数：359,112 冊、無償配布冊数：35,670 冊></p> <p>⑥ ビッグデータを活用した新産業創出についての検討の実施。</p> <p>⑦ 市内中小企業検索ポータルサイトの構築についての検討の実施。</p>
------------	---

	<p>⑧ 電動四輪自転車「いーちゃりかー」の実証実験の実施。</p> <p>⑨ カーボンニュートラルについての講演等の実施。</p>
説 明	<p>① 各種支援策の最新情報の提供及び社会保険労務士・行政書士による専門相談を実施するとともに、セーフティネット保証4号・5号・危機関連保証といった一般保証とは別枠の保証の対象とする資金繰り支援を実施しました。</p> <p>② 市内の小規模事業者のうち、令和3年1月～4月の売上減少率が前年または前々年比で5%以上50%未満で、国・府の支援金の対象とならない事業者に対し、小規模事業者等事業継続支援金として10万円を交付しました。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策備品として令和3年4月1日以降に購入した非接触型消毒液ディスペンサー、サーキュレーターの購入代金等に補助金を交付しました。(1店舗当たり上限5万円)</p> <p>④ 市のセーフティネット保証4号・5号・危機関連保証の認定を受け、大阪府の新型コロナウイルス感染症関係制度融資において400万円以下の融資実行を受けた事業者に対し、信用保証協会へ支払った信用保証料の補給金を交付しました。</p> <p>⑤ 市内の感染症対策店で利用出来るひらかたコロナウイルス感染症対策実施店舗応援プレミアム付商品券を発行し、感染症対策店舗を応援すると共に、地域における消費を喚起を促しました。</p> <p>⑥ 市内在住大学院生より、ビッグデータを活用した様々な事例の事業化についての提案を受け、NICTと情報を共有しながら本市での実施についての検討を行いました。</p> <p>⑦ 市内在住大学院生より、市内中小企業検索ポータルサイトの構築について提案を受け、NICTと情報共有等の連携を図りながら、構築に向けての協議・検討を行いました。</p> <p>⑧ 新たな移動手段として電動四輪自転車「いーちゃりかー」の実用化に向けた実証実験を野外活動センターで実施し、引き続き商店街等のイベントでの展示や試乗等の機会の提供について検討を行っていきます。</p> <p>⑨ 市内事業者に向けたカーボンニュートラル実現に向けての講演やセミナーを、地域産業クラスター研究会主催の産学公連携フォーラムの中などで開催しました。</p>

具体的な取り組み：総合文化芸術センターを中心とした賑わいの創出

文化芸術活動の拠点施設である総合文化芸術センターを中心に、市内事業者などと連携した取り組みを通して、市駅周辺の活性化を図ります。また、センター主催事業を豊富化するとともに、文化芸術拠点施設と枚方宿地区の双方が、賑わいの波及を図ることができる新たな取り組みを進めます。

現在整備中の総合文化芸術センター本館については、8月末に開館記念式典を挙行し、大阪フ

イルハーモニー交響楽団による柿落とし公演を皮切りに、本市出身の世界的ヴァイオリニスト・五嶋みどり氏の公演や4人の文化芸術アドバイザーによる事業など、オープニングイヤー企画として、魅力的で多彩なジャンルの事業について一年を通して順次展開していきます。

新規事業として、吹奏楽や合唱、演劇、美術といったジャンルごとに市民に発表の機会を提供する市民総合文化祭や、枚方市展（公募型美術工芸選抜展）を開催します。

<p>実績</p>	<p>8月30日に総合文化芸術センターの開館記念式典を開催し、魅力的で多彩なジャンルの事業を実施することにより、賑わいを創出。</p> <p>① 総合文化芸術センター開館記念式典を開催。</p> <p>② 大阪フィルハーモニー交響楽団の開館記念特別公演を開催。</p> <p>③ 文化芸術アドバイザー企画を実施。</p> <p>④ 市民総合文化祭2021を開催。</p> <p>⑤ 第1回枚方市展を開催。</p>
<p>説明</p>	<p>① 8月30日に総合文化芸術センター開館記念式典を開催し、合計624人の市内外の関係者が来場しました。</p> <p>② 9月5日に大阪フィルハーモニー交響楽団の開館記念特別公演を開催し、1,310人が来場しました。</p> <p>③ 文化芸術アドバイザー企画として、8月30日に能楽公演『辰巳満次郎「船弁慶」×野村萬斎「末廣かり」』を開催し、1,420人が来場しました。また、10月8日から10日にかけて『東京ノート』、『ヒラカタノート』を各3公演開催し、それぞれ670人、275人が来場しました。11月27日から28日にかけて3公演開催した『12人のおかしな大阪人～2021』には819人が来場しました。</p> <p>④ 市民の日ごろの文化芸術活動の発表機会の提供とジャンルを超えた交流や賑わいの創出を目的に、市民総合文化祭を9月11日から23日に開催しました。合唱や吹奏楽をはじめ、人形劇、演劇、クラシック音楽、三曲、舞踊、落語の舞台部門と、絵画・書道・写真の展示部門、短歌・俳句部門の全13ジャンルの発表を行いました。</p> <p>⑤ 公募選抜美術工芸展である「枚方市展」を12月15日から20日に開催しました。日本画、洋画・版画、書、彫塑・立体、工芸、写真の6部門に市内外から406点の応募があり、入選作品201点を展示しました。</p>

具体的な取り組み：大阪・関西万博を見据えた観光方針のとりまとめと施策の戦略的推進

令和7年の大阪・関西万博開催時に淀川上流から万博会場までの船の往来を目指す淀川大堰の閘門整備、枚方市駅周辺に開業予定のホテルや観光ステーションのリニューアル、総合文化芸術センターなど有益な観光資源が整いつつある中、本市観光施策を戦略的に推進するため、観光の方針をとりまとめます。

また、文化財をはじめ、スポーツ、商工業、農業等との連携を図り、民間企業等との協働で観

光コンテンツや様々なツーリズムの開発・充実に取り組むとともに、民間活力を活用した観光交流施設の整備について検討を進めます。

豊富な観光資源を持つ友好交流都市とNICTとの連携を通して、新たな都市交流事業に取り組みます。併せて、グリーンスローモビリティなど、観光資源間の回遊性を高める手法について調査・研究します。

観光ステーションについては、枚方市駅周辺再整備による市駅高架下へのリニューアル移転に伴い、地域の回遊性を高める拠点としての機能強化を図ります。

本市に数多く存在する歴史文化遺産を、地域性や時代等を鑑み、交野ヶ原歴史回廊（古代）、東高野街道歴史回廊（中世）、京街道歴史回廊（近世）の三圏域を設定し、有効に保存・活用を図ると共に、広域連携による観光施策へ活用・展開を図ります。

また、特別史跡百済寺跡再整備事業については、築地塀の復元実施設計などを行うとともに、国史跡である「楠葉台場跡」など史跡公園については活用促進を図ります。

なお、古代枚方の魅力を広く発信するため、特別史跡百済寺跡における市内大学生が作成した創建時のAR映像の紹介、史跡近くの中学校・高校と連携したイベントの開催をはじめ、本市の歴史文化遺産を分かりやすく紹介する映像の作成、百済王氏とゆかりのある自治体との交流（資料館交流や物産展）など、様々な普及啓発事業に取り組みます。

枚方宿については、江戸時代に宿場町として栄えた魅力を市内外に発信するため、地域との共同企画などを、検討します。

旧田中家鋳物民俗資料館については、運営のあり方について検討するとともに、地域の祭りや風習、郷土食など伝承に課題がある歴史文化についても、市民と共に次代に守り伝えられることのできる方策を検討します。

また、地域の多様な関係者を巻き込んだ体制の構築として、枚方版観光地域づくり法人（DMO）について検討します。

実 績	<ul style="list-style-type: none">① 有識者等で構成する近畿運輸局の「近畿観光まちづくりコンサルティング」に採択され、令和4年3月に枚方市観光まちづくり提案を受けたほか、行政関係者・民間事業者等と対話を行いながら、万博に向けた観光施策による地域活性化の方向性を示した枚方市観光ロードマップの作成を推進。② 10月～1月、ひらかたパークと連携した地域経済の活性化事業に取り組んだほか、令和4年1月には、枚方文化観光協会主体、市は連携自治体として、観光庁の実証事業採択を受け、枚方宿周辺に点在する観光資源を連携させるイベントを開催。③ 幼児療育園跡地を活用した観光交流施設の整備については、求める機能や役割について庁内議論を進め、枚方宿地域の賑わい創出につながる施設を民設民営手法により整備していく方針を決定。④ 令和3年10月、NICTとの連携により先端技術を活用し、仮想空間で子どもたちが共感体験する新たな友好都市交流を実施。⑤ 新たな観光ステーションについては、観光ロードマップ作成と並行して検討
------------	--

	<p>を行い、他の観光関連施設との役割分担や求める機能について庁内議論を実施。</p> <p>⑥ HIRATAKARA 展の開催。〈来場者 1,142 人〉</p> <p>⑦ 東高野街道の日本遺産候補地域登録申請に参画。〈10 市 3 町〉</p> <p>⑧ 府天然記念物「枚方田中邸のむく」樹勢回復事業及び歴史文化遺産の記録・保存を実施。〈埋蔵文化財調査 26 件（延べ 234 日）、埋蔵文化財届出処理 735 件、埋蔵文化財を除く文化財調査 18 件〉</p> <p>⑨ 特別史跡百済寺跡再整備事業において、築地塀の復元工事実施設計及び東側入口アプローチ部分の整備等を実施。</p> <p>⑩ 楠葉台場跡保存事業において、史跡の維持管理を実施。</p> <p>⑪ 「百済寺跡で 1,250 年前の寺院を体感」の開催。〈参加者 65 人〉</p> <p>⑫ 枚方宿鍵屋資料館を拠点に魅力発信したほか、「まちかど歴史展示」を開催。〈来館者 5,725 人〉</p> <p>⑬ 旧田中家鋳物民俗資料館の管理運営等について精査を行ったほか、民俗調査（祭り、踊り等）を実施。〈来館者 4,213 人〉</p>
<p style="text-align: center;">説 明</p>	<p>① 「楽しい」「おいしい」が待っている「淀川の中継港」をコンセプトに据え、行政関係者、民間事業者とビジョンを共有して取り組んだことにより、河川エリアの活性化に向けた新たなイベント開催（令和 4 年度当初実施）などの具体化につながりました。</p> <p>② 枚方宿、枚方市駅、枚方公園駅、淀川河川エリアを面で捉えた地域活性化に取り組む具体的な事業に取り組んだことで、民間事業者等との連携を深め、令和 4 年度以降の推進体制につながりました。</p> <p>③ 幼児療育園跡地の活用については、民設民営で整備する方針のもと、令和 4 年度において、サウンディングや公募に向けて取り組んでいきます。</p> <p>④ 友好都市と NICT の連携を推進したことで、コロナ禍における各都市の観光資源の情報発信や相互の都市交流事業の実現につながりました。</p> <p>⑤ 観光施策全体の中での観光ステーションの役割や機能を整理する必要があることから、令和 4 年度において、機能決定やデザイン設計等を推進していきます。</p> <p>⑥ 市内歴史文化遺産を「HIRATAKARA（枚方の宝物）」として広く周知するため、ひらしん美術ギャラリーで 9 月 29 日～10 月 4 日に開催しました。埋蔵文化財「百済王氏の至宝」・民俗文化財「水辺のまち、水辺のくらし」の展示のほか、「文化財お宝上映会」等の関連イベントを同時開催しました。</p> <p>⑦ 日本遺産候補地域登録申請（悠久の歴史を紡ぐ高野街道/代表:河内長野市）に参画しました。審査結果は令和 4 年 7 月公表予定です。</p> <p>⑧ 「枚方田中邸のむく」については、土壌改良、液体肥料の注入、定点観測を実施しました。発掘調査については、百済王氏がまちづくりを行ったと考えられる禁野本町遺跡や百済寺遺跡で本発掘調査を実施し、平安時代の建物等の遺構を確認しました。</p>

	<p>⑨ 特別史跡百済寺跡再整備事業では、史跡東側の階段やスロープの設置を行いました。また、歴史的建造物である築地塀の復元工事の実施設計が完了し、令和4年度着工予定です。</p> <p>⑩ 楠葉台場跡保存事業において、史跡内の清掃や除草、竹林の間伐、適正利用を呼び掛ける看板の設置等を実施しました。</p> <p>⑪ 11月23日に百済寺跡公園において、大阪工業大学の協力で百済寺創建時の様子を再現したARの体験会等を実施したほか、常翔啓光学園中学校・高等学校に移動し、校内にある「禁野本町遺跡」発掘調査パネルの見学と解説を実施しました。</p> <p>⑫ 枚方宿では、11月19日～12月19日に枚方宿地区まちづくり協議会・枚方文化観光協会と合同で、枚方宿内の6店舗を会場にして「枚方宿まちかど歴史展示」を開催し、市が保管するくらわんか茶碗や弥生時代の土器など6種類を展示公開しました。鍵屋資料館では開館20周年記念展「菊人形のつくりかた一花と技の融合」や、「北河内4館スタンプラリー」を本展示期間中に開催。枚方宿内で同時期に複数イベントがあることで人の流れを創出し、地域活性化につなげました。</p> <p>⑬ 旧田中家鋳物民俗資料館に係る指定管理者制度の導入について検討し、引き続き直営での運営を継続します。枚方市を含む大阪府内の地域にまたがる踊りの民俗文化「交野節」について、大阪府と協力して調査を開始したほか、地域の祭り、郷土食、風習等の調査を実施しました。</p>
--	--

具体的な取り組み：地域活性化を踏まえたスポーツ施策の推進

今年の夏に実施予定の東京オリンピック・パラリンピックの機運を高めるスポーツイベントとして、パブリックビューイングやスポーツクライミングなど新たなオリンピック種目を体験できるスポーツイベントを開催します。

地元スポーツチームであるパナソニックパンサーズやFCティアモ枚方との連携を強化し、より市民に愛されるチームとするために、地域住民と交流できる機会を増やすとともに、広報ひらかたやSNSでの発信強化など、市民に対して知名度を高める取り組みを進めます。

また、チームと地域の事業者・事業者等とのマッチングを行うことで、コラボによる新商品の開発をはじめ、チームの集客力を活かして試合観戦と市内観光を組み合わせたツアーの企画など、地域経済の活性化にもつながる「スポーツツーリズム」を推進します。併せて、総合スポーツセンターの体育館や陸上競技場においては、市民の利用機会の確保に留意しながら、プロスポーツイベント等に活用できるよう検討を進めます。

野外活動センターについては、地元と民間事業者との連携によるアウトドアッキング教室やトレイルランニングなど、コロナ禍においても楽しめる野外活動の利点を活かしたモデル事業に順次取り組み、併せて、施設の今後のあり方について検討を進めます。

<p>実績</p>	<p>① 東京オリンピック・パラリンピックの機運を高めるため、地元チームの選手が登場するオンライン応援イベントを開催。</p> <p>② 地元スポーツチームと連携し、公式試合に市民を無料招待するなど、知名度を高める取り組みを推進。</p> <p>③ 地域経済の活性化策としてスポーツツーリズムにつなげる取り組みを推進。</p> <p>④ 野外活動センターにおいて活性化の方策や市民のニーズに応えるための公民連携事業を実施。</p>
<p>説明</p>	<p>① コロナ禍においても、東京オリンピック・パラリンピックの機運を高めるため、7月28日に、枚方市ゆかりの選手が出場する男子バレーボールの日本対イタリア戦を、パナソニックパンサーズの選手や市民とオンラインで応援するイベントを開催しました。</p> <p>また、令和3年8月15日には「枚方市採火～東京パラリンピック聖火フェスティバル」を市民団体等との協働により実施し、当日の様子について動画配信することにより、広く市民への周知を図りました。</p> <p>② パナソニックパンサーズとFCティアモ枚方による、市民を対象とした公式試合への無料招待として、8月22日、11月27日にFCティアモ枚方の市民応援デーを実施し、1月15日と16日に、パンサーズの市民応援デーを実施した結果、多くの市民に知名度を高められました。</p> <p>また、FCティアモ枚方においては、学校園への出前授業を開催し、トップチームとの触れ合いを通じて、子どもたちがスポーツを楽しむ機会を創出し、チームの認知度向上につなげました。</p> <p>③ 地域経済の活性化や賑わいの創出につなげるため、FCティアモ枚方やパナソニックパンサーズの地元開催試合と連動した催しを行い、市内の商店街や飲食店等との連携も進められました。</p> <p>また、この取り組みにより、本市のPRや交流人口の増加、スポーツツーリズムにつながるよう取り組みました。</p> <p>④ 野外活動センターでは、アウトドアクッキング教室や、健康ウォーキング、民間事業者と連携した里山トレイルランニング教室の実施、公民連携プラットフォームを活用した事業など、利用者の多様なニーズに応えるため、さまざまな事業に取り組みました。</p> <p>10月31日に開催したキャンプフェスティバルでは約500名が来場し、ドローン体験やツリークライミング体験のほか、キッチンカーも出店するなど、新規顧客の獲得につながるイベントとなりました。</p> <p>また、冬季の利用促進を図るため、冬季の平日利用及び宿泊利用を試行的に実施したところ、平日の利用率は70%以上、400名以上の利用があり、宿泊利用（ロッジ）については、稼働率70%以上でした。さらに、1月15日からは、施設内の一部においてドローン飛行操縦を可能とする試行的な取り組みを開始しました。</p>

	令和4年度は、引き続き公民連携プラットフォームを活用した民間事業者との連携事業の実施に取り組むとともに、野外活動センターの活性化及び利用促進につながるよう、課題の解決に向けて検討を進めます。
--	---

具体的な取り組み： 「農」を生かした産業の活性化とため池・森林環境の保全

摂南大学農学部や農業従事者、商業者や事業者等との連携を図り、枚方の気候・風土などの地域特性や消費者ニーズに対応した農業特産物の創出に向けて、新たな品目による試行栽培を検討します。併せて6次産業化については、摂南大学との連携による「すももサイダー」の商品化に向けて取り組みを進めるほか、新たな商品開発についても積極的に検討を進め、「農」の産業化に取り組めます。

農業の担い手育成の一環として、新規就農者等によるグループ営農の仕組みづくりをはじめ、農地銀行の活用や農地中間管理機構との連携による遊休農地の利活用検討などに取り組むほか、教育や福祉等の分野との連携に向けて積極的に働きかけを行うなど、農業のもつ多様な効果を生かした取り組みを進めます。

また、豪雨等によるため池の堤防決壊に伴う水害や土砂災害等の未然防止、水防活動の迅速化を図るため、雨量やため池水位を瞬時に把握可能なため池防災テレメータについて、大阪府と連携して設置を進めるとともに、昨年度に策定した森林整備方針に基づき、整備の必要性が高い地域や災害発生時に市民の安全への影響が想定される地域から順次、森林整備に取り組むとともに、林地台帳の整備を進めます。

実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 摂南大学との連携により「すももちゃんサイダー」を開発、商品化。 ＜約 12,000 本＞ ② 新規就農者や協力者に対する支援制度の実施。 ③ 農地銀行を活用した農地のマッチング。 ＜新規の利用権設定面積：10,812 m²＞ ④ ため池防災テレメータの設置。＜3 基＞ ⑤ 森林整備方針に基づいた森林整備の実施。＜2.22ha＞
説明	<ul style="list-style-type: none"> ① 市と摂南大学との間で締結した「食育と都市農業に関する包括連携協定」に基づく取り組みとして、6次産業化に向けて杉地域のすももを使用したサイダーを製作、販売するプロジェクトを立ち上げ、「すももちゃんサイダー」が完成しました。令和3年11月にはお披露目会を実施しました。 ② 認定新規就農者制度においては、令和3年度に1名の就農計画を新たに認定しました。令和3年度末時点では計3名が認定されており、令和4年4月1日から新たに1名の就農計画を認定する予定です。 ③ 農地銀行等を活用した農地のマッチングを行い、準農家育成講座の修了生が貸借設定した農地を含む約1.1ヘクタールの農地について、新たに利用権設定を行いました。利用権設定により、意欲ある農業従事者が経営規模を拡大する

	<p>ことができ、農地の遊休化を防ぐことにつながります。</p> <p>④ ため池防災テレメータについて、府と連携して3機を設置しました。なお、保守点検等の費用に関する負担として78千円の負担を行いました。</p> <p>⑤ 森林整備方針に基づき、人々の暮らしに隣接する本市域の森林を健康な森として再生させるため、早急に対策が必要な拡大する竹林の間伐及び除伐をそれぞれ1.98haと0.24ha、計2.22haの竹林整備を行いました。</p> <p>また、林地台帳と資産税台帳との突合により、林地台帳の精度の向上に取り組みました。</p>
--	---